

# 武装し、準備し、正念場 決戦に勝利しよう!

## 5月17日 労働学校へ

# 日刊 労働千葉

86. 5. 8

No. 2234

### 国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八 (動力車会館)  
(鉄電)二九三五六・(公衆)〇四七二(22)七二〇七

いま職場では、国鉄「分割・民営化」攻撃の嵐が吹き荒れている。労働千葉への二八名解雇をはじめとした大量報復処分、労働革マルによる真国労デッチ上げ、さらには、広域配転、勤務評定、企業人教育、「61・11」ダイ改などと、労働者を恫喝・差別・分断、あげくに選別しようとする労働千葉・国労つぶしの攻撃は、今秋「61・11」にむかつてとどまることなくかけられてきている。われわれは、敵の攻撃が激しければ激しいほど原則をより堅持し、襲いかかる攻撃に真向から対決しうる理論を学び、そして実践していく、ということの重要性は、日々これまでに以上に高まっている。第二期労働学校がいよいよ再開される。それとともに全国オルグ・映画上映運動と、物資販売活動もスタートする。「61・11」粉碎へ猛然とスパートしよう。

### 第八回講座 五月十七日開校

第二期労働学校は、本年三月終了の予定であったが、昨年十一月第一波、本年二月第二波をはじめ「分割・民営化」一十万人首切り阻止へ向けた重大な闘いが間断なく闘われる中で開催が延期され今日に至っている。

国鉄をめぐる攻防が本格的段階を迎えている今こそ、労働学校をはじめとする学習・教育活動の強化が求められている立場から、①労働学校を早急に再開する、②期間を今年十月まで、③現在の受講生を基本とし、五月十七日、第八回講座より開校することを決定した。

### 理論武装で 敵の攻撃をぶちやぶれ

あの中曽根は、今やグラグラである。労働革マルの裏切りと国労中央の無方針のもとで労働者は恫喝すれば屈服するとタカをくくり、やりたい放題やってきた中曽根は、二波のストライキで揺らいできた。

中曽根は昨年、秋に国鉄、春に三里塚を叩き、天皇サミットを弾圧をもって強引に成功させ、三選の野望を果たし、改憲戦争への道へ突き進む反動プランを決定した。中曽根は、自らの野望のために国鉄労働者十万人の首を切ろうとしている。こんなことをどうして許せるか。

国鉄総裁・杉浦は、昨年「10・9プラン」で、「61・10」末までの一年間で十万人の首切りを「完了させる」と言明し、合理化攻撃を強行してきた。再建監理委・亀井は「去るも地獄・残るも地獄にしなければ分割・民営化などできない」と公言した。われわれは「今、起って闘わなければ確実に地獄しかない。闘わずして敗北するより闘って勝利しよう」との決意をもって二波のストライキを闘い

抜いた。ストライキは、中曽根の分割・民営化の悪事をみごとにあばき出し、中曽根の反動プランは、われわれの闘いによつて崩壊寸前である。今一步、中曽根に對する大きなたたかいがまきおれば、中曽根は打倒され、「分割・民営化」もブツとばせるのだ。だからこそ、敵は、さらに凶暴な攻撃にうってでてきているのだ。われわれは、敗けるわけにはいかない。闘って闘って勝利しなければならぬ。「61・11」まで六カ月、まさに決戦中の決戦である。敵の攻撃を撃上回る理論で武装し、職場に全国にうってではありませんか。

### イギリス炭鉱労働者三六〇日間 ストライキの教訓をわがものに

●テーマ「イギリス炭坑ストライキの教訓」  
日本以上に厳しい情勢下でのストライキ——騎馬警官による大弾圧、金をちらつかせた切りくずしにも屈せず、組合基金の凍結の下で、共に分かち合い、全国からのカンパのもとで不屈に闘いぬき、当局の大合理化提案を事実上阻止し、ますます組織力・団結力を強化している炭労労働者の生き生きとした報告と教訓。

講師・法政大学教授 増田寿男氏

二年間イギリスに留学され、炭労ストを自らの目で見、労働者と共に語られてきた法政大学教授・増田寿男氏——「この二年、自分がイギリスにいた間に日本の労働運動はおどろくほど右傾化した。ヨーロッパでは、大量の失業者、大合理化という日本以上の厳しい中でストを含む様々な闘いが長期にわたって闘われている。日本は、スト非難の声がマスコミ等にあおられ横行しているが、ひるむことなく自信をもって闘いぬいてほしい」(談)

日時 五月十七日(土) 十三時三〇分  
場所 動力車会館